

那覇空港をご存じですか？

沖縄県の玄関口である那覇空港は、本土復帰後約30年が経過し、その間、利用者の増加や社会経済状況、利用者ニーズを踏まえて、空港施設を拡充してきました。平成11年に国内線旅客ターミナルビルを新築、平成15年には、空港と市街地を結ぶ沖縄都市モノレール「ゆいレール」が開業され、より便利で快適な施設とサービスの向上を図っています。

現在、那覇空港を利用する方は、年間1,250万人※1に達しており、沖縄県を訪れる観光客の97%が空港を利用しています。また、観光やビジネスばかりでなく、県民の日常生活にも大きな役割を果たしています。

那覇空港の重要性、地域の将来との関わりの深さ等から、「那覇空港が今後どのような方向性をとっていくのか」ということは、みなさんの生活にとっても重要な問題です。このパンフレットをご覧になりながら一緒に考えてみましょう。



現在の那覇空港

※1 平成15年空港利用客数

那覇空港のこれまでの歩み

1925	昭和 8 年	旧海軍小禄飛行場として開設	
	昭和 11 年	逓信省那覇飛行場に改称	(内地～台湾間の民間定期便の中継飛行場として逓信省が整備)
	昭和 17 年	旧海軍小禄飛行場に改称	
1950	昭和 20 年	終戦に伴い、米軍の管理となる	
	昭和 47 年	本土復帰に伴い、国が設置・管理する第二種空港「那覇空港」として指定	
1975	昭和 47 年	滑走路の延長が2,550mから2,700mへ	
	昭和 61 年	滑走路の延長が2,700mから3,000mへ	
2000	平成 11 年	国内線新旅客ターミナルビルの開業	
	平成 15 年	沖縄都市モノレール「ゆいレール」開業、那覇空港へ乗り入れ	

那覇空港の施設概要

種別	： 第二種空港
面積(敷地面積)	： 326ha
滑走路(長さ×幅)	： 3,000m×45m
運用時間/利用時間	： 24時間



那覇空港(上空写真)

国内線旅客ターミナル

国内線新旅客ターミナルビルは、分散立地していた旧ターミナルビルの集約化と増大する航空需要に対応する目的で整備が行なわれ、平成11年(1999年)に供用開始されました。

国際線旅客ターミナル

国際線旅客ターミナルビルは、航空需要の増加によって狭隘化したため整備が行なわれ、昭和61年(1986年)に供用開始されました。

貨物ターミナル

貨物ターミナルビルは、供用開始から数回の増築整備が行われ、現在では6棟が使用されています。



那覇空港旅客ターミナル



那覇空港貨物ターミナルビル



快適・便利になった那覇空港へのアクセス

■ 沖縄都市モノレール「ゆいレール」

平成15年開業の沖縄都市モノレール「ゆいレール」は、那覇空港ターミナルを始発駅として、首里駅までの12.9kmを約27分で運行しています。



営業時間 : 午前6時～午後11時30分
 運転間隔 : ピーク時 6.5分間隔
 早朝深夜 15分間隔
 その他 7.5分～12分間隔
 定員 : 165人
 所要時間 : 片道約27分
 需要予測 : 約3万5千人／一日当たり(平成15年)



■ バス

那覇空港を起点とする一般乗合バスは、毎日7系統が約20分間隔で運行しており、そのすべてが那覇バスターミナル経由で、利用者の目的地までのアクセスが便利な運行形態となっています。また那覇空港からは、読谷村、恩納村、名護市などのリゾートホテルにリムジンバスが運行しています。

■ タクシー

那覇空港におけるタクシー乗り場は、1階到着ロビー正面に、近距離、遠距離と旅客のニーズに合わせて区分されており、待ち時間の短縮など利用者に配慮したものとされています。

■ レンタカー

レンタカー利用者のために、到着ロビー正面にレンタカー乗り場が設置されており、利用者は各々のレンタカー会社の迎いの車で移動できるシステムとなっています。

■ その他のアクセス

那覇空港と沖縄自動車道を連絡する那覇空港自動車道の整備が行われています。



広がる那覇空港航空路線ネットワーク

那覇空港の航空路線ネットワーク

那覇空港の航空路線ネットワークは、本土～台湾の定期便からスタートし、本土復帰時に15路線、その後は本土便を中心に拡充されています。

現在、国内線31路線、国際線4路線が開設※2されています。

※2 平成16年現在

■ 国内線 : 31路線・30都市

- ・ 県外路線(23路線) : 東京、大阪(伊丹、関西)、新千歳、福岡、名古屋、広島、仙台、福島、新潟、富山、小松、岡山、高松、高知、松山、熊本、長崎、大分、宮崎、鹿児島、奄美大島、与論島
- ・ 県内路線(8路線) : 石垣、宮古、久米島、粟国、南大東、北大東、与那国、慶良間

■ 国際線 : 4路線・4カ国4都市

- ・ 台湾 (台北、中華航空、毎日2便)
- ・ 中国 (上海、中国東方航空、毎日1便)
- ・ フィリピン (マニラ、フィリピン航空、週4便)
- ・ 韓国 (ソウル、アシアナ航空、週3便)



那覇空港の利用状況

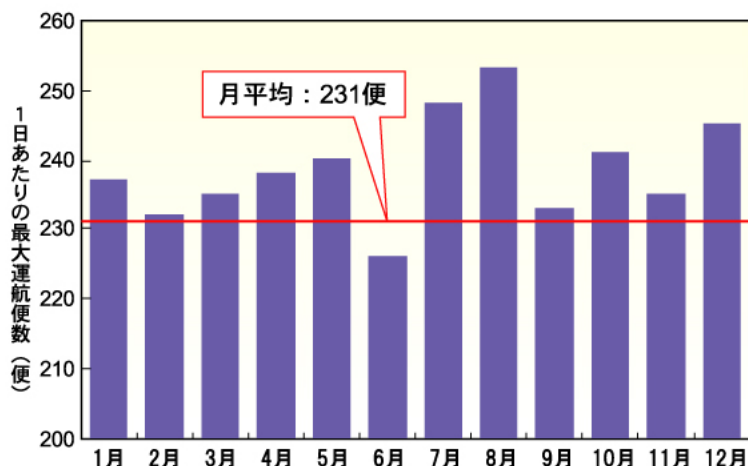
那覇空港は国内で利用頻度が高い空港の一つ

那覇空港では、国内線31、国際線4路線が就航し、年間離着陸回数は11万回を超えるとともに、1日あたりの平均運航便数が231便※3、ピーク時間帯(11時台)の運航便数が30回となるなど、国内でも利用頻度が高い空港の一つとなっています。

※3 チャーター便・貨物便を除く

那覇空港の月別1日あたりの運航便数の推移
(定期便、発着便合計 平成15年)

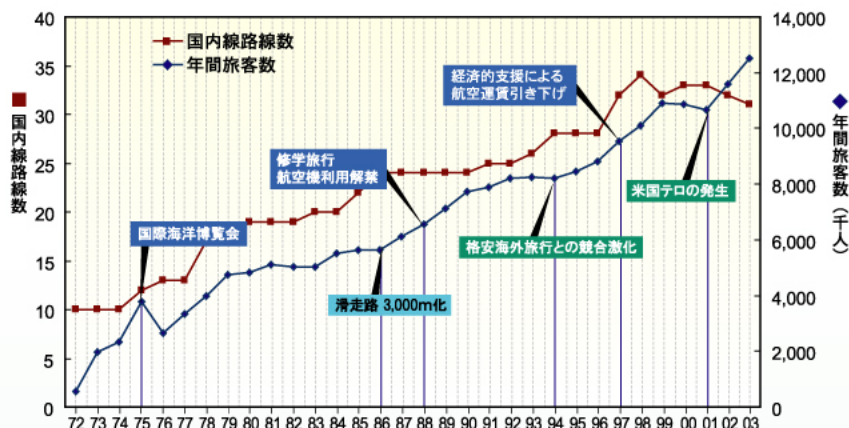
資料) JTB時刻表(平成15年1月～平成15年12月)より作成。



旅客需要は年々増加傾向にあるとともに、観光客のほとんどは空路により訪問

利用旅客数では、平成15年時点で1千250万人に達し、増加傾向にあるとともに、観光客のほとんどは空路によって訪問しており、那覇空港は沖縄県にとってなくてはならない重要な社会基盤となっています。

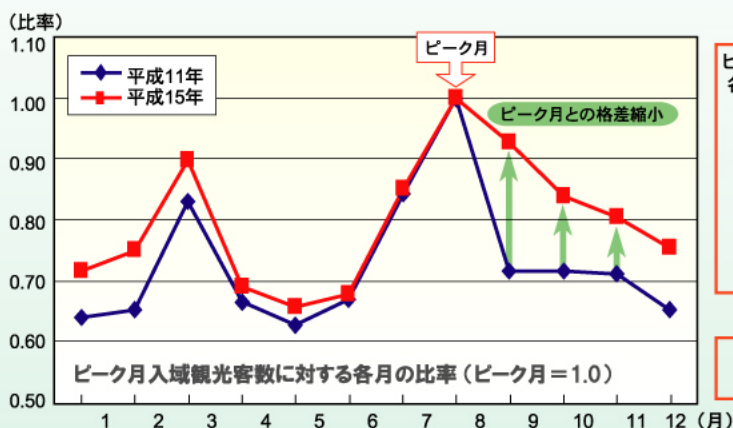
那覇空港における国内線旅客需要の推移
資料) 国土交通省大阪航空局那覇空港事務所資料より作成



夏季などに旅客が集中する空港

那覇空港の月間利用客数の推移を見ると、夏季などに旅客が集中するピークが発生しています。

近年は、地元観光・リゾート業界のオフピーク期への誘客活動や航空業界の割引運賃制度によるオフピーク期への誘客が進んでおり、年間を通じて平準化する傾向にあります。



ピーク月に対する各月旅客数格差の年間平均

平成11年
143千人/月

↓

平成15年
108千人/月

↓

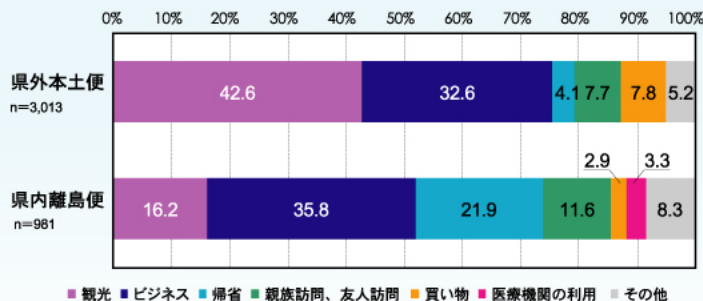
約3.5万人の格差縮小

沖縄県月別入り込み客数の変化

資料) 入域観光客数は、平成15年月別入域観光客統計概況(沖縄県商工労働部観光リゾート局)より作成

那覇空港の利用特性

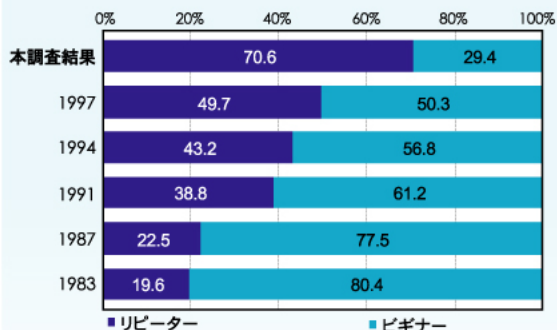
本土との路線では観光目的が中心、
離島との路線では、ビジネスや帰省による
利用が顕著



便別旅行目的の割合

資料) 航空利用者アンケート調査(国内線、平成16年2月)より作成。
無回答票数除く。

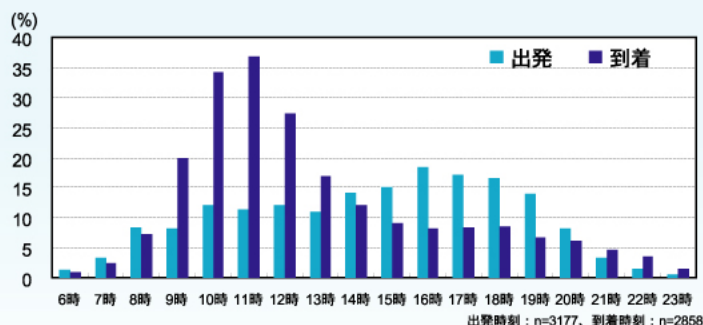
利用者の7割はリピーター



沖縄県観光客のリピーター比率の推移

資料) 航空利用者アンケート調査(国内線、平成16年2月)より作成。
無回答票数除く。

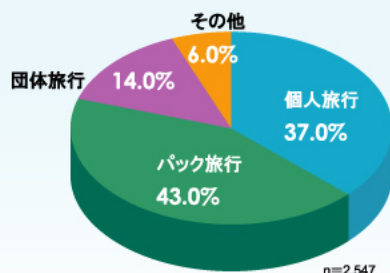
希望の到着時刻は11時台、希望の
出発時刻は16時台のニーズが最も高い



那覇空港国内線の希望の出発・到着時刻

資料) 航空利用者アンケート調査(国内線、平成16年2月)より作成。
無回答票数除く。

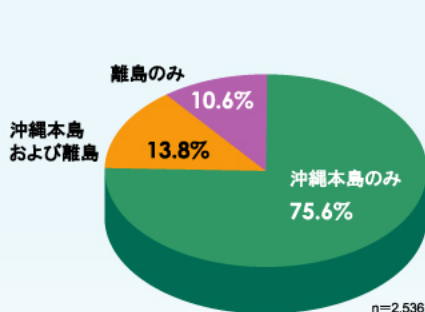
利用する航空便、訪問先等において、選択自由度が高い
パック旅行や個人旅行の
比率が8割



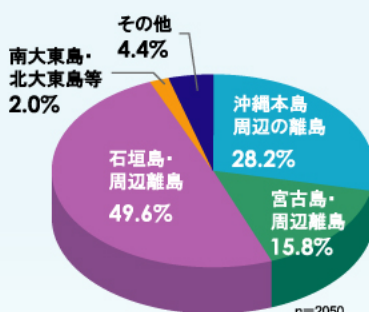
旅行形態(県外の方)

資料) 航空利用者アンケート調査(国内線、平成16年2月)より作成。
無回答票数除く。

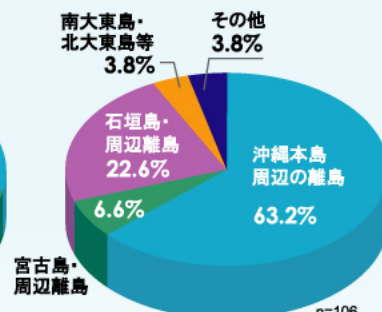
県外観光客の訪問地は本島が中心、ただし、離島を希望するニーズも高い



<県外訪問客の実態>



<県外訪問客の希望>



<海外訪問客の希望>

沖縄観光で実際に訪問した場所(県外の方)

資料) 航空利用者アンケート調査(国内線、平成16年2月)より作成。
無回答票数除く。

沖縄観光で訪問したい場所・訪問希望の場所

資料) 航空利用者アンケート調査(国内線・国際線、平成16年2月)より作成。
無回答票数除く。

那覇空港をより良いものとするためには、皆さんの声が必要です。

那覇空港をより良いものとするために、国と沖縄県が連携して行う「那覇空港の総合的な調査」について、PIを実施します。

那覇空港は、国の交通政策審議会の答申で、将来的に需給が逼迫することが予想されることから総合的な調査が必要であると示されました。

那覇空港は平成15年で約1,250万人の方に利用されており、観光やビジネスばかりでなく、皆さんの日常生活にも大きな役割を果たしています。那覇空港の重要性、地域の将来との関わり方の深さ等から、那覇空港の将来は、皆さんにとっても、非常に重要な問題です。

「那覇空港の総合的な調査」は、皆さんに積極的に情報を提供し、広く皆さんのご意見をいただきながら進めていきます。

(→これをPI＝パブリック・インボルブメントといいます)

総合的な調査の流れ

調査段階

那覇空港の総合的な調査

具体的な
計画段階

対策の
実施

■ 那覇空港の総合的な調査のフロー及びPIのステップ ■

PIの必要性とPIのプロセス等

ステップ0

既存ストックの有効活用方策の検討

旧ターミナル地区を含めたターミナル地区全体の整備のあり方の検討(国・県)

ステップ1 (基本方針)

ステップ2 (対応策)

・航空機材の大型化
・利用時間の少ない時間帯の活用
・高速脱出誘導路増設等による
空港能力の向上 等 (国・県)

抜本的な空港能力向上方策の検討

地域における空港の役割と効果、住民意識等の把握 (県)

ステップ1

空港能力の考え方の整理
(望ましいサービスレベルの検討等)
(国・県)

航空利用特性の分析と
将来需要予測の検討(国・県)

ステップ2

空港能力の見極め (国)

滑走路増設等の方策について、必要となる時期の検討及び施設配置、空港能力、空域、環境、費用対効果等の観点からの実現可能性の検討 (国・県)

ステップ3

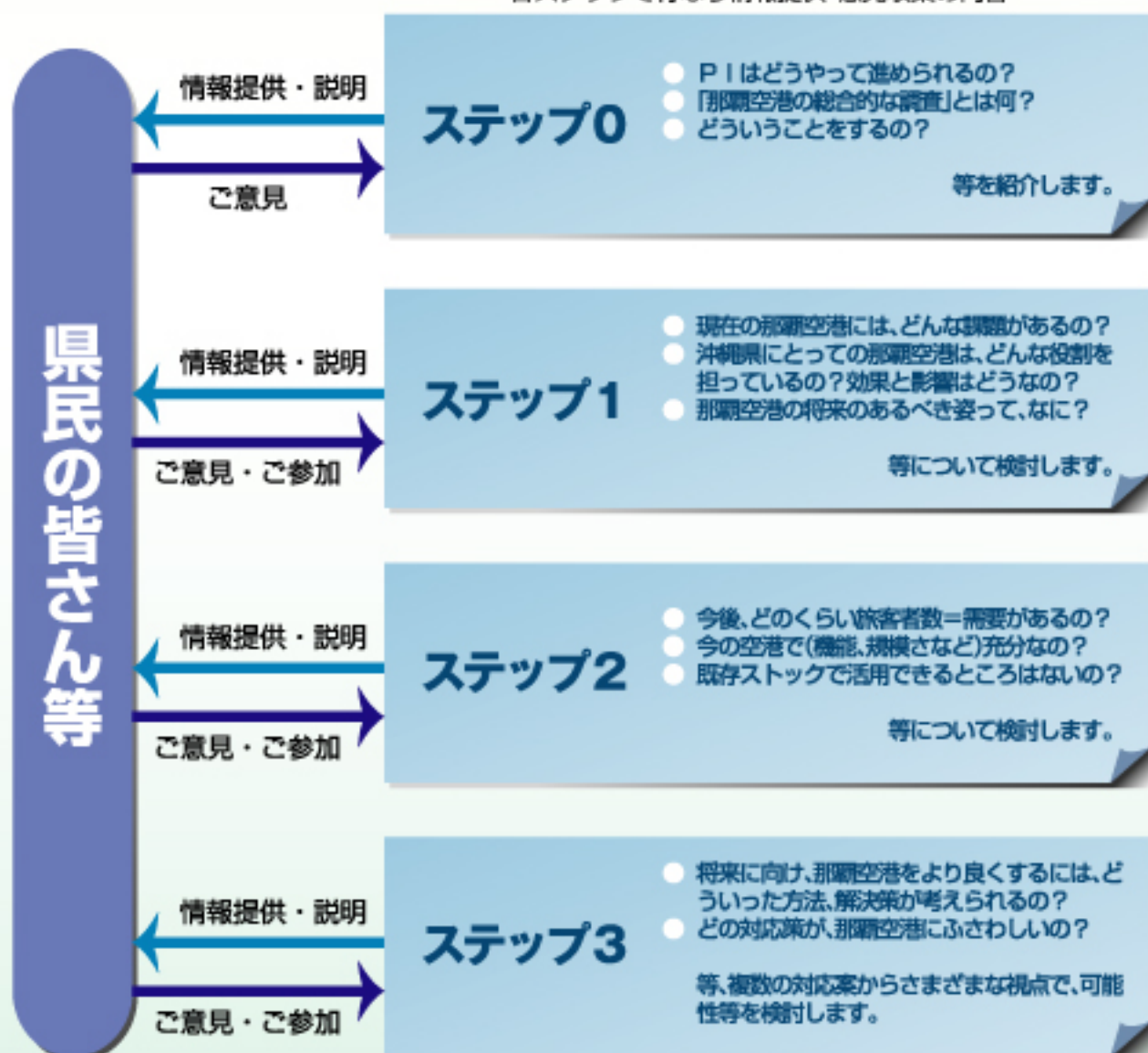
「那覇空港の総合的な調査」では、皆さんがわかりやすく参加しやすいように、4つのステップでPIを実施していきます。

「那覇空港の総合的な調査」では、皆さんにわかりやすく、また参加しやすいように4つのステップを設けました。それぞれのステップで、PIを行いながら課題や方策等を検討していきます。

そして、皆さんに提供された情報が十分ご理解いただき、また皆さんからのご意見が十分に把握できた段階で、次のステップに進みます。

■ 那覇空港の総合的な調査についてのPIのステップ ■

各ステップで行なう情報提供・意見収集の内容



那覇空港調査連絡調整会議では、5つの基本方針に基づき、PIを実施します。

PI実施の基本方針

- 1 情報公開を原則とする。**

総合的な調査に係る情報は公開を原則とします。ただし、個人情報に係るものなどを除きます。
- 2 積極的に広く情報提供を行う。**

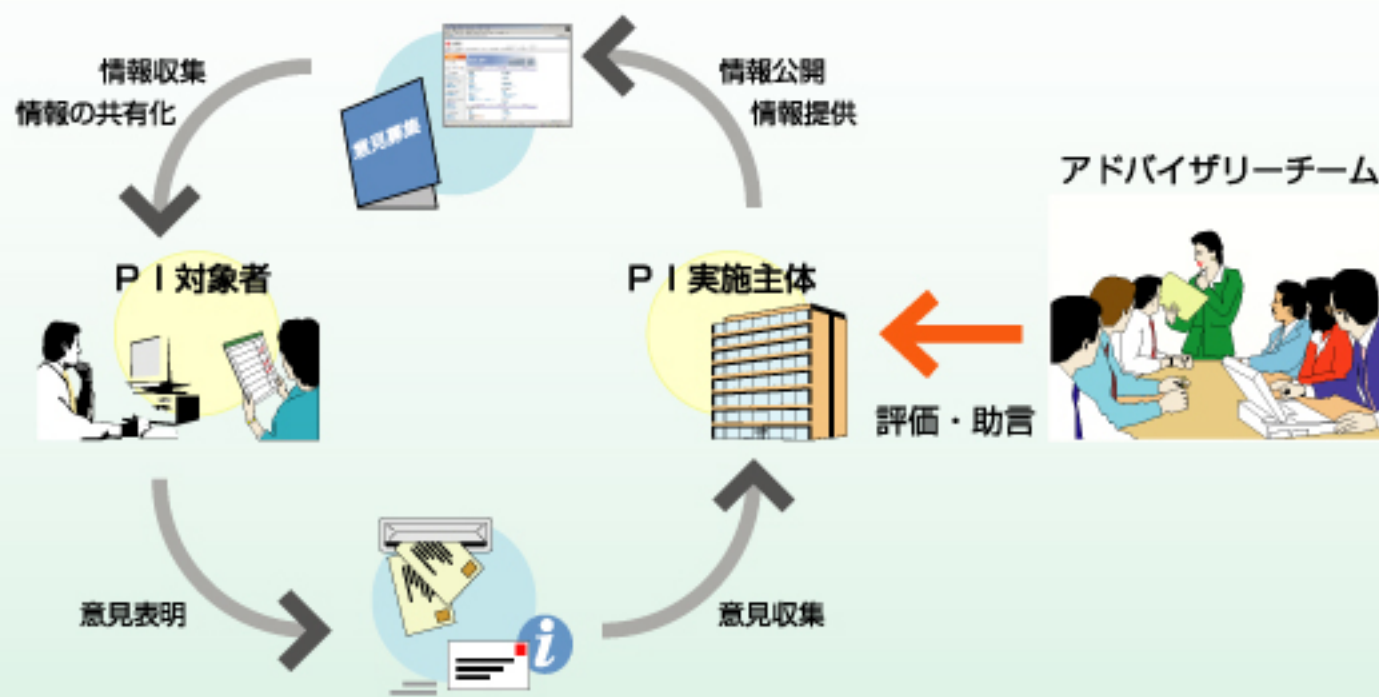
PI実施主体としてPI対象者にアピールしたい情報については分かりやすく積極的に情報を提供します。
- 3 積極的に広くニーズや意見を把握する。**

提供した情報について意見を収集する際、情報の性格に応じ最適な方法を選択し意見を収集します。
- 4 PIプロセスを適切に構築する。**

情報公開や情報提供ならびに意見収集を効果的に実施するためには、どのタイミングでどのような情報のやりとりを行うかといったPIプロセスを適切に構築します。
- 5 アドバイザリーチームにより、PIの評価、助言を行う。**

十分な情報の提供や意見収集がなされているか等について評価や助言を第三者機関が行うことにより、PIの透明性を確保します。

PI実施イメージ



「那覇空港調査連絡調整会議」が、県民の皆さんや那覇空港に関係する様々な方々に対して積極的に情報を提供し、皆様の意見を収集します。

- 「那覇空港の総合的な調査」について何か知りたいときや意見があるとき、どこが窓口になりますか？

国(国土交通省大阪航空局、内閣府沖縄総合事務局)、沖縄県では、この総合的な調査を進めるため、共同で「那覇空港調査連絡調整会議」をつくりました。

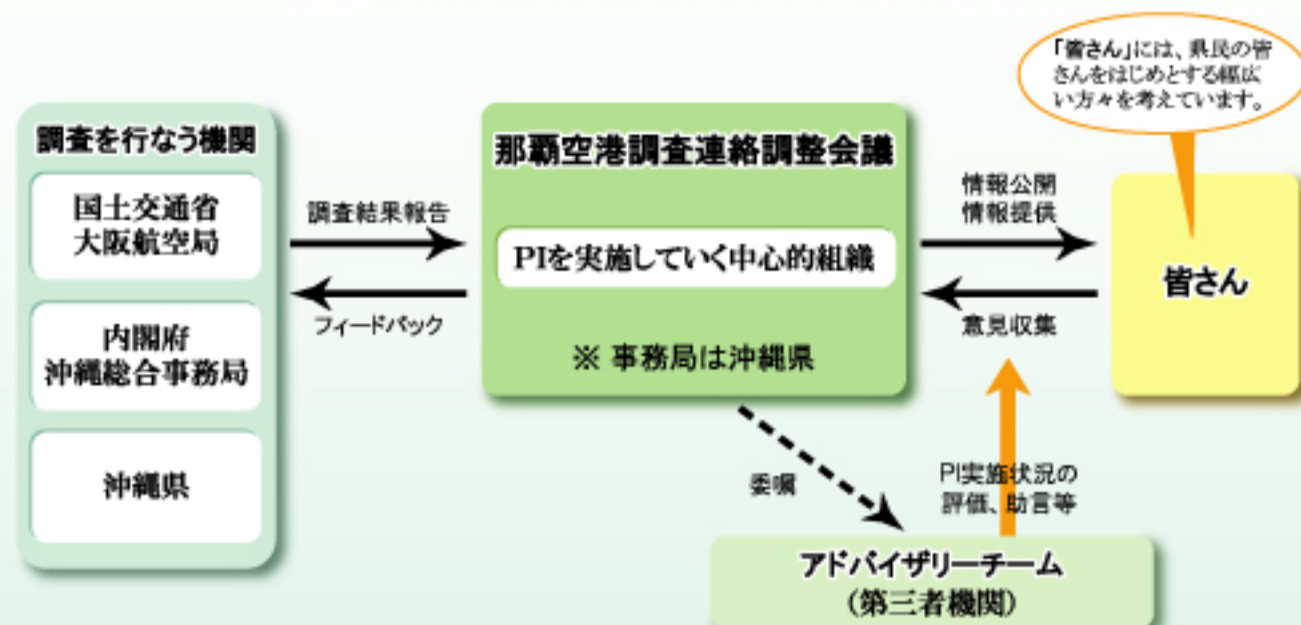
この会議が窓口となって、県民の皆さんや、那覇空港に関する方々の積極的な参加の機会を提供したり、広くご意見をいただけるようなPIを実施していきます。

- PIが正しく進められているかどうかは、どのようにチェックしますか？
(誰がチェックしますか？)

PIについて監視していくアドバイザリーチーム(第三者機関)をつくります。皆さんへの情報提供や意見収集が十分に行われているかを監視し、那覇空港調査連絡調整会議に対して、助言を行います。

PI、法律、空港などについての専門的知識を持っている人々で組織します。

■ 総合的な調査・PIの実施とチェックの流れ ■



皆さんへの情報提供や意見収集には、
ステップ毎に、様々な手法を実施していきます。

皆さんがご参加しやすいよう、各ステップでの検討内容に合わせて様々な手法でPIを実施していきます。また、実際に行なう方法や内容については、具体的なPI実施計画を作成し、お知らせします。

■ 各PIプロセスにおける主なPI手法 ■



パブリック・コメント



広く県民の皆さんより意見や情報をもらう機会を設け、いただいた意見等を反映したりするものです。

オープンハウス



県民が気軽に訪れられる場所にて、パネル等を用いて情報提供し、意見収集や意見交換を行う場のことです。

アンケート



那覇空港に関するご意見や意識等について、皆さんから個別に調査する手法です。

ホームページ



インターネット上のホームページによる情報公開の方法です。

説明会



総合的な調査の内容やこれまでの議論・検討内容等について、皆さんに直接説明を行ったりするところです。

市民協議会・ワークショップ



協議会は、様々な意見を持つ方々によって、広く意見や情報を提供してもらうために設置する会議です。

シンポジウム



有識者などによる講演や数名のパネリストどうしでの議論を行ないます。皆さんも話を聞いたり質問したりできます。

ワークショップは、絵を描いたり、模型を使うなど様々な手法を用いて具体的なアイデアを出し合い検討する場です。



那覇空港調査連絡調整会議では、ご意見・ご質問をお待ちしています！

那覇空港調査連絡調整会議 事務局 （沖縄県企画開発部交通政策室）

TEL : 098-866-2045 FAX : 098-866-2448 e-mail : aa015500@pref.okinawa.jp
<http://www.pref.okinawa.jp/koutsuu/kuukou-tyouseikaigi.htm>

-
- 国土交通省 大阪航空局 飛行場部 空港整備調整課
〒540-8559 大阪市中央区大手前4-1-76 FAX : 06-6949-6218 <http://www.ocab.mlit.go.jp/top.htm>
 - 内閣府 沖縄総合事務局 開発建設部 港湾空港建設課
〒900-8530 沖縄県那覇市前島2-21-7 FAX : 098-860-1000 e-mail : mai-kuukou@ogb.cao.go.jp
<http://www.dc.ogb.go.jp/kyoku/information/nahakuukou/index.htm>
 - 沖縄県 企画開発部 交通政策室
〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2 FAX : 098-866-2448